

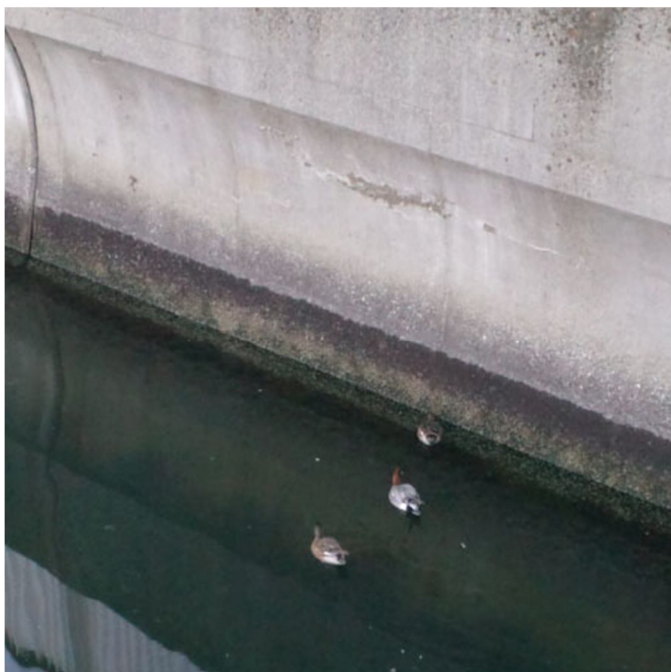
「通勤バードウォッチング(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

通勤中に通る場所には、いくつかの川もある。大横川(門前仲町)、隅田川、日本橋川、神田川などである。これらの川には、水鳥の姿が見られることもある。



ここが大横川。東西線の門前仲町駅出口から徒歩1分のところにある。写真は黒船橋から見た大横川で、この日は鴨が3羽浮かんでいた。



大横川は海に近く、海面の干満の影響を受けやすい。この日は干潮で、水位がだいぶ下がっていた。実は、大横川では干潮の時に、いろいろな生き物を観察できる。鴨も、満潮の時には見たことがないが、どういうわけか干潮になるとどこからともなく現れる。これにはちゃんと理由がある。



鴨をよく観察していると、ただ浮かんで遊んでいるわけではなく、しきりに護岸を突いて、何かを食べているのがわかる。私は地下鉄を2本も見送って、この鴨が何を食べているのか観察してみた。餌の正体は「フジツボ」のようだ。鴨がフジツボを食べるなんて聞いたこともないが、間違いなく食べていたようだ。



実は、大横川が干潮になった時に、フジツボを食べに来るのは、鴨だけではない。写真は何か月前に撮った写真だが、○の中にスズメが写っている。体を逆さまにして、やはりフジツボをつついていて、1羽だけかと思ったが、スズメは何羽もいて、揃ってフジツボを突いていた。

上の写真では、クラゲ(ミズクラゲ)が何匹も写っている。干潮の時に、海から流されてきて、門前仲町駅の近くの川に漂っているのだ。門前仲町は、都内にあつて新たな自然観察の名所になるかも知れない。